

成果の説明書

(氏名) 阿久津 由佳	(学部) 経済学部
1 重要事項 (1) カリキュラム改革 2016 年度に最も力を注いだのは、英語カリキュラム改革案の策定である。2017 年に本格実施予定の大規模なカリキュラム改革に向けて、他の英語部会のメンバーと協力して、改革案作成のためのデータ収集および分析と、その結果を取り入れた改革案の作成を行った。 具体的には、 ①プレイスメントテスト検討のためのパイロット実施と結果分析およびまとめ：経済・地域の両学部の学生を対象に、VELC および Versant を実施した。VELC は 5 月に 130 名、2 月に 93 名が受験、Versant は 2 月に 100 名が受験した。それぞれについて、内容、実施手順、実施環境、結果などを分析し、来年度以降の利用の可能性や問題点について検討を進めた。 ②カリキュラム改革案の作成：両学部の英語教員と協力して、カリキュラムの内容や科目等、具体的な改革案を作成した。また、基礎教育の在り方検討委員会から指名され、一元化を視野に入れた両学部統一英語カリキュラム改革を検討するワーキンググループの一員として、作成したカリキュラム案について、より具体的な実施計画を作成するとともに、実施における問題点等を洗い出し、その解決のための方策を検討した。 (2) 教育 現行の授業の改善に向けての取り組みも引き続き行っている。2015 年度も前年度までのデータ（社会で必要とされている英語力に関するデータ、TOEIC 問題の傾向の分析、学生が能動的に学習できる英語授業の形態についての実験的取り組み等）を活かし、学生からのニーズの高いビジネス英語および TOEIC に頻出する語彙・表現を、リスニングの形で授業に取り入れた。学習形態についても、学生の能動的な受講を促す工夫を続けた。授業評価及び個別のアンケートにおいても特に「ビジネス英語が有益」とのコメントが多く、成果が出ていると考えている。 また、授業外での積極的学習を促すため、授業時間外に希望者を対象に個別の英語学習相談を実施し、各自のレベルや適性、目標に合わせた学習計画作成のアドバイス等を行うことも継続している。 (3) 研究 引き続き英語の語用論的要素をどのように学校英語教育に取り入れるかについての研究を進めている。特に、日本語と英語の語用論表現の違いを意識して学習することによって、表現定着がどのくらい異なるかについての本調査を進めた。少人数での調査を二度実施し、現在はその分析を行っている。	

2 その他の事項

- ・経済学部英語部会長として、カリキュラム改革をはじめとする英語化関連の課題解決のための英語部会の開催、運営、まとめなどを行った。
- ・学生への個別留学相談への対応を行った。
- ・基礎教育の在り方検討委員会のワーキンググループメンバーとして、新英語カリキュラムに関する検討を行った。

3 次年度以降の計画・抱負

2016 年～2017 年にかけては、新英語カリキュラムの本格実施に向けての準備を中心にしていきたい。具体的な実施までにはクリアすべき点が多々あるため、他の英語教員と協力して魅力と特色のあるプログラムの実施を実現したい。